

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度春入学

一般入学試験（C日程・2月18日分）

試験科目：民法

1. 出題趣旨

設問1は、表示錯誤と動機の錯誤を意思表示論の中に正しく位置付けて理解しているかを問うた基本的問題である。そのうえで、設問2は、表示錯誤と動機の錯誤とでは95条の適用に違いがあることを理解しているか、95条がそのままでは適用されない動機の錯誤に関する判例理論を理解しているかを問うた。

設問3は、危険負担の問題であり、中古自動車の売買の事例をもとに、特定物売買における危険負担の理解について問うたものである。

2. 採点実感

設問1・2は多くの答案が間違いでないことは書けていたが、その分、表示錯誤と動機の錯誤の違いが明確になるよう的確な説明ができていないか差がついたと言える。

設問3については、本件が534条1項の問題であることは理解できている答案が多く、また、同規定を適用した場合の結論も正しく記述できているものが多かった。しかし、そもそも534条1項の規定には批判が多く、適用を制限する考え方が有力に主張されていることに考えがいたっている答案が少なかったのは残念なことであった。有力説によれば、目的物の引渡しが行われていない本件では、同規定の適用はないことになる。

3. 学習方法

基礎的概念や要件・効果といった制度の骨格を正確に理解し習得するということを徹底することが大切である。また、知識を「使える」ものにするためには、知識を表面的に捉えるのではなく、つねにその背後にある理論との結び付きを考える必要がある。そのためには日頃から基本書を読まなければならない。安直な学習は役に立たない。